

主要木材の短期需給見通し(平成19年第2四半期及び平成19年第3四半期)の概要

1 国産材(製材用丸太)

製材用丸太の需要は、新設住宅着工戸数が前年並と見込まれることなどから、平成19年第2四半期は305万m³程度(前年同期比(以下同じ。)104.9%)、平成19年第3四半期は280万m³程度(100.1%)になるものと見通される。

2 米材

(1) 丸太

需要は、新設住宅着工戸数が前年並と見込まれることなどから、平成19年第2四半期は85万m³程度(90.1%)、平成19年第3四半期は85万m³程度(102.1%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は85万m³程度(92.6%)、平成19年第3四半期は85万m³程度(106.7%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、新設住宅着工戸数が前年並と見込まれることなどから、平成19年第2四半期は89万m³程度(101.4%)、平成19年第3四半期は88万m³程度(108.5%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は88万m³程度(102.7%)、平成19年第3四半期は88万m³程度(109.8%)になるものと見通される。

3 欧州材(製材品)

供給は、欧州市場の好況やユーロ高などにより産地価格が上昇しているものの、集成材用ラミナとして需要が堅調と見込まれることなどから、平成19年第2四半期は77万m³程度(100.3%)、平成19年第3四半期は74万m³程度(99.5%)になるものと見通される。

4 南洋材

(1) 丸太

製材用丸太の需要は、資源的制約や合板用丸太との競合などがあるものの、梱包及びパレット向けの需要が見込まれることなどから、平成19年第2四半期は3万m³程度(110.4%)、平成19年第3四半期は3万m³程度(98.2%)になるものと見通される。

また、合板用丸太の需要は、新設住宅着工戸数が前年並と見込まれることなどから、平成19年第2四半期は29万m³程度(103.7%)、平成19年第3四

半期は29万m³程度(96.6%)になるものと見通される。

一方、製材用、合板用を合わせた丸太の供給は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は30万m³程度(95.9%)、平成19年第3四半期は33万m³程度(76.5%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、産地価格の上昇や需要が梱包材などに限られていることなどから、平成19年第2四半期は13万m³程度(92.0%)、平成19年第3四半期は13万m³程度(100.3%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は13万m³程度(95.9%)、平成19年第3四半期は13万m³程度(97.8%)になるものと見通される。

5 北洋材

(1) 丸太

需要は、合板用原料として堅調な需要が見込まれることなどから、平成19年第2四半期は130万m³(100.5%)、平成19年第3四半期は115万m³程度(100.4%)になるものと見通される。

供給は、中国などからの引合いが強いことや産地価格の上昇などから、平成19年第2四半期は140万m³程度(96.9%)、丸太輸出への課税などにより産地側に供給見合わせなどの動きが見込まれることなどから、平成19年第3四半期は90万m³程度(81.4%)になるものと見通される。

(2) 製材品

供給は、現地での製品輸出指向の高まりに加え、丸太輸出への課税などにより製品輸出へシフトすることが見込まれることなどから、平成19年第2四半期は28万m³程度(97.3%)、平成19年第3四半期は26万m³程度(124.5%)になるものと見通される。

6 ニュージーランド・チリ材

(1) 丸太

需要は、梱包及びパレット用に加え、合板向け需要が見込まれるものの、産地価格が上昇していることなどから、平成19年第2四半期は19万m³程度(77.5%)、平成19年第3四半期は22万m³程度(98.3%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は20万m³程度(99.9%)、平成19年第3四半期は23万m³程度(108.0%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、梱包及びパレット向け需要が堅調と見込まれるものの、産地価格が上昇していることなどから、平成19年第2四半期は11万m³程度(101.6%)

%)、平成19年第3四半期は12万m³程度(95.0%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は13万m³程度(100.1%)、平成19年第3四半期は12万m³程度(86.7%)になるものと見通される。

7 合板

国内製造合板と輸入合板を合わせた総需要量は、新設住宅着工戸数が前年並と見込まれることなどから、平成19年第2四半期は208万m³程度(99.8%)、平成19年第3四半期は205万m³程度(98.6%)になるものと見通される。

輸入合板の供給量は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は117万m³程度(103.3%)、在庫の状況などから、平成19年第3四半期は114万m³程度(91.7%)になるものと見通される。

国内製造合板の供給量は、需要動向を反映し、平成19年第2四半期は81万m³程度(100.1%)、平成19年第3四半期は81万m³程度(98.7%)になるものと見通される。

8 構造用集成材

輸入集成材の供給量は、国内需要は堅調であるものの、欧州域内の好景気やユーロ高などにより産地価格が上昇していることなどから、平成19年第2四半期は21万m³程度(100.5%)、平成19年第3四半期は21万m³程度(97.2%)になるものと見通される。

また、国内製造集成材の供給量は、集成材用ラミナ製品がコスト高となっているものの、堅調な需要動向を反映し、平成19年第2四半期は39万m³程度(105.7%)、平成19年第3四半期は40万m³程度(103.9%)になるものと見通される。